

事例7 生徒が必要感をもって主体的に取り組むことのできる指導の事例

○学年 第2学年

○単元名 「器械運動」(跳び箱運動)

○事例のポイント

- ①自己の目標像を明確にすることで、生徒が見通しをもって「何のために学ぶのか」という必要感をもって学べるようにする。
- ②生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度「課題」、「伸び」に応じて、指導方法や練習場所を明確にする。
- ③自己の「できた」、「わかった」を実感できるように課題発見・解決を繰り返し行い、生徒が主体的に活動できるようにする。

ICTを活用した主な学習場面

- ・課題、振り返りを記入する場面
- ・生徒の出来映えを確認する場面
- ・情報収集や蓄積、映像確認をする場面

ICT活用の利点

- ①デジタル学習カードを活用し、学習の見通しや振り返り、学習進度の確認、映像確認を行い「課題」に対する手立てや適切な評価につなげる。【教師・生徒の利点】
- ②アンケートの集約や振り返りの効率化を図る。【教師の利点】
- ③デジタル資料集を作成し、学習資料を蓄積・活用する。【生徒の利点】
- ④自らの演技や見本の映像、アドバイスデータを活用することで、話合いの視点を明確し意見交換やアドバイスの充実を図る。【生徒の利点】

1 単元名 「器械運動」(跳び箱運動)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

自己の能力に適した技に挑戦し、仲間と協力し互いに補助することで、合理的な解決に向けて一緒に喜びや達成感を味わうことができる運動である。

筋力や柔軟性・平衡性など多くの体力要素を高めることができる運動であり、基礎的な運動能力を維持・向上することも期待できる運動である。

(2) 生徒から見た特性

跳び箱運動の楽しさや喜びを感じる要因	跳び箱運動を遠ざける要因
・技が成功したとき。 ・できなかった技ができたとき。	・技ができないとき。 ・怪我をしてしまったとき。

3 生徒の実態(略)

4 教師の指導観

(1) 知識及び技能

アンケート調査から不安感や苦手意識がある生徒が多いため、できた時の喜びや達成感を多く味わわせたい。基本的な技ができない生徒もいるため、例示されている技を自己の体格や技能の程度に応じて技がよりよくできることや自己に適した技で演技することを全員が達成できるように目標にする。段数の高さよりも出来映えを重視し、一連の動きで滑らかに行えるように段階的な指導をしていく。単元の最初に、跳び箱運動の特性について触れたり、学習の見通しを持たせたりして、この単元を通して生徒の目標像を明確にする。

(2) 思考力、判断力、表現力等

自己や仲間の考えたことを他者に伝えられるようにするために、仲間との関わりの中で、デジタル学習カードやデジタル学習資料などのICTを用いて、いつでもどこでも知識の確認や視覚的に変容が確認できるようにする。また、単元を通して課題発見・課題解決を繰り返す中で、自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選択できるように場の設定を工夫する。

(3) 学びに向かう力、人間性等

準備や片付けなど、自分の役割分担に率先して動けるような指導の工夫を行う。事前調査では、跳び箱運動を遠ざける要因として、「けが」や「恐怖心」、「技ができない」といった回答が多くあった。生徒が安心して活動できるよう、安全の確保を第一に考え、器具や練習場所などの自己や仲間の安全に留意して練習や演技を行うことができるようにする。「技ができない」等の苦手な生徒に対しては、「できる感覚」を体感させるために技能の程度、性別や障害の有無等に応じて、技の出来映えを認めることができるようにする。そのために、参加者全員が達成感を味わえる場面や良い演技を称賛する声かけを行ったりするなど、協働的に取り組めるようにする。

5 単元の見目標

(1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方（その運動に関して高まる体力など）を理解するとともに、技をよりよくできるようにする。

〈知識及び技能〉

(2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 〈思考力、判断力、表現力等〉

(3) 跳び箱運動に積極的に取り組むとともに、（よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする）一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする（など）や、（健康・安全に気を配ること）ができるようにする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

※本事例では、単元の見目標は学習指導要領「2 内容」を踏まえ、第1学年及び第2学年の見目標を全て記述している。他の単元で指導し評価する部分については（ ）で示している。

6 単元の見評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①跳び箱運動は、多くの「技」があり、技の出来映えを競うことを楽しむことや技ができる楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。 ②技の行い方や動き方のポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ○技能 ③基本的な技を一連の動きで滑らかにして跳び越すことができる。 ④着手位置、姿勢などの条件を変えた技や基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すことができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②提供された練習方法から、自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。	①跳び箱運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。

7 単元の計画

(1) 領域の取り上げ方（略）

(2) 領域の内容(運動種目)と目指す動き

学年	内容	目指す動き
2	跳び箱運動	<ul style="list-style-type: none">・ 切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと。・ 着手位置、姿勢などの条件を変えた技や発展技を行うこと。
3	跳び箱運動	<ul style="list-style-type: none">・ 切り返し系や回転系の技を滑らかに安定して行うこと。・ 着手位置、姿勢などの条件を変えた技や発展技を行うこと。

(3) 指導と評価の計画（8時間扱い） 本時は○印 4/8時

時間	1	2	3	④	5	6	7	8	
ねらい	器械運動の授業の 行い方を学ぼう。	切り返し系の技の 行い方を理解し跳 び越すことができ るようにしよう。	回転系の技の行い 方を理解し跳び越 すことができるよ うにしよう。	条件を変えた技や 発展技で跳び越そ う。	自己の課題の確認を行い、練習内容を選 択して解決のための練習ができるよう にしよう。	事例のポイント①	発表に向けて互い に声を掛け合い、 認め合うことがで きるようにしよ	積極的に挑戦し、 発表会を楽しも う。	
単元の目標像：できる喜びや達成感を味わえるように、自己に合った技で滑らかに跳び越すことができるようにする。									
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 授業の約束事 学習の進め方 学習カードや資料の活用方法 役割分担 安全な学習の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 助走、踏み切り、着手、空中姿勢、着地の行い方 切り返し系の技のポイント 補助の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 助走、踏み切り、着手、空中姿勢、着地の行い方 回転系の技のポイント 補助の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 自己に適した技の選択 条件を変えた技や発展技のポイント 着手位置、姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の発見と練習方法の選択の仕方 補助、助言の仕方 提示資料の見方 自己、仲間の課題の確認方法 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の確認方法、練習の振り返り方 自己の成果や課題の見付け方 援助の仕方 練習場所の設置方法 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の状況に合った課題設定 仲間への配慮 役割分担の仕方 発表の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 挑戦することの意義 良い演技を称賛すること 授業のまとめ 	
事例のポイント①	事例のポイント①		ICT活用の利点①					編 P112 指導計画作成の留意事項(1)	
学習過程	1 集合・挨拶・出席確認・健康観察 2 本時のねらいと内容確認 3 オリエンテーション ・単元の目標像 ・跳び箱運動の特性 ・学習の進め方 ・グループ編成 4 役割分担 5 用具の準備 6 運動のポイント 7 主運動につながる運動 8 集合、健康観察 9 整理運動 10 学習の振り返り 11 まとめ 12 次時の予告 13 挨拶、片付け	1 準備、挨拶、出欠確認、健康観察 2 準備運動 3 主運動につながる運動 4 本時のねらいと学習内容の確認 5 既習の技を練習 ・開脚跳び ・抱え込み跳び 6 ICTの活用の仕方 ・動画の撮影方法 ・学習カードの使い方 7 練習の仕方、ポイントを理解する 8 成果の確認 ・演技発表							5 発表する技の確認 6 発表会に向けて練習 7 発表会 8 単元のまとめ ・目標像の再確認 ・最初と最後の演技を確認
事例のポイント②	事例のポイント②		事例のポイント③		事例のポイント③			編 P112 指導計画作成の留意事項(2)	
事例のポイント③	事例のポイント③		ICT活用の利点②		ICT活用の利点④			事例のポイント③	
9 集合、健康観察 10 整理運動 11 学習の振り返り、まとめ 12 次時の予告 13 挨拶、片付け									
評価計画	知・技	①	②③	②③	④			④	
	思・判・表					①	②		
	態	(①)					②	①	
	方法	観察・カード	観察	観察・カード	観察	観察・カード	観察・カード	観察	観察
場面	3、10、11	5、7、8、11	5、7、8	7、8	6、7、8、11	6、7、8、11	7、8	6、7	

8 本時の学習と指導（4／8時）

- (1) ねらい
 - ・着手位置、姿勢などの条件を変えた技や基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すことができるようにする。 〈知識及び技能〉
- (2) 準備（略）
- (3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入 7分	1 準備、挨拶、出欠確認、健康観察 2 準備運動 3 主運動につながる運動 ①前転・後転⇒ランニング ②ウサギ跳び⇒ランニング ③馬跳び ④腰上げ ⑤跳び乗り・跳び下り・着地	○協力して素早く準備できるように声かけをする。 ○観察を通して健康状態を把握する。 ○準備運動に集中して取り組める雰囲気を作る。 ○場の安全と周囲の安全を確保させる。 ○運動のポイントを確認しながら反復練習できるようにする。 ○音楽を流しながら、学習意欲を高める声かけや仲間の努力を称賛し合える雰囲気を作る。
	4 本時のねらいと学習内容の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 条件を変えた技や発展技で跳び越そう。 </div>	○前回までの学習内容を確認し本時の流れ、ねらいを掲示する。 ○生徒が学習の見通しをもてるように流れと目標を確認する。
展開 35分	5 条件を変えた技や発展技の行い方を確認する <各局面におけるポイント> ・助走、踏み切り、着手、姿勢、着地が途切れずに続けること	○単元の目標像を確認し、段数や技の難易度を上げることだけを目的としていないことを伝える。 ○模範映像や生徒の演技映像を比較することで、各局面におけるポイントを理解できるようにする。
	6 練習方法を選択する ・自分に合った技と練習場所を設定するために前時までの学習資料を参考に考える。 ・3～4人グループで確認する。 ※同系統の技で組む。 例) <開脚跳び・開脚伸身跳び> ①ウサギ跳び ②馬跳び ③低い段（セーフティマット） ④自分に合った段（補助） <台上前転・伸膝台上前転> ①積み上げマット ②二台跳び箱を連結 ③低い段 ④ステージ（セーフティマット） ⑤横にソフトマット設置 ⑥自分に合った段（補助）	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ICT活用の利点① 模範映像と生徒の演技映像を比較することによって、本時のねらいとゴールを可視化し、ポイントに着目できるようにする。 </div> ○練習方法の選択が適切であるか確認する。 ○グループで学習が進められるように、学習資料を確認する。 ○全体を巡回し、選択につまづきを感じている生徒に助言する。 ○男女の比率や体格差なども考慮できるように助言する。

事例のポイント②【学習資料】
 生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度を前時の資料を参考に、自己の目標像や技能の程度に合わせた取り組みができるようにする。参考資料もデジタル資料集の中に集約し、いつでも確認できるようにする。



自己の学習進度や到達度を表や模範映像を参考に、目標像を目指すために必要な取り組み方を視覚的にイメージすることができる。「何」を「どのように」、「どんな」練習をするのかを確認す

展開
35分

〈かかえ込み跳び・屈身跳び〉

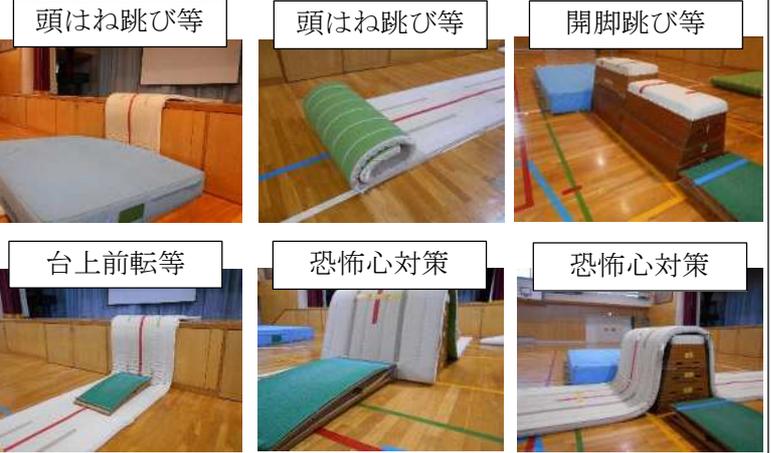
- ①ウサギ跳び
- ②横向き跳び箱（セーフティマット）
- ③自分に合った段

〈頭はね跳び及び前方倒立回転跳び〉

- ①マット（先端を丸める）
- ②ステージ（セーフティマット）
- ③低い段（マット）
- ④セーフティマット
- ⑤自分に合った段

7 自己に適した高さや練習場所の選択

事例のポイント②【練習場所例】



◆着手位置、姿勢など条件を変えた技や基本的な技を発展させて、跳び越すことができる。（観察）【知識及び技能】

「△努力を要すると判断される状況（C）の生徒への指導の手立て」

- ・条件を変えた技や発展技で跳び越すことが困難な生徒には、教師が個別に以下のような指導に当たる。
 - ①助走、踏切、着手、姿勢、着地のどの局面を見たらよいかを気付かせる。
 - ②模範映像や撮影した映像を比較し、参考資料をもとに一緒に考え、ポイントに気付かせる。
 - ③技の難易度等を下げても自己に適した技や高さで行うことを提案する。
- 「◎十分満足できると判断される状況（A）の生徒の具体的な姿」
- ・助走、踏切、着手、姿勢、着地が途切れずに自己に適した高さで勢いをコントロールし、滑らかに跳ぶことができています。

8 成果の確認、演技発表
・発表者、記録者、補助、アドバタイザーを決めて実施する。

- 練習が適切でない生徒に声かけをする。
- 補助や技ができるようになったところを伝え称賛する。
- 練習で得た成果や改善点を演技発表で意識できるようにする。
- 技の出来映えを称賛し、仲間の努力を認めることができるようにする。

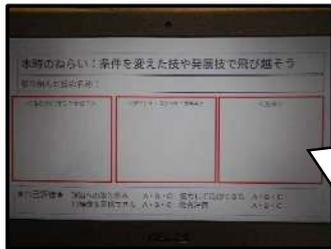
9 集合、健康観察
10 整理運動
11 学習の振り返り、まとめ

- 素早く集合し、健康観察を行う。
- ゆっくりと整理運動を行わせ、心身がほぐれるようにする。
- 伝えられたねらいやポイント等を整理できるようにする。
- 学んだ知識を「何を」、「どのように」という視点で整理しながら具体的にまとめられるようにする。
- ねらいを達成できた生徒を称賛する。

整理
8分

ICT活用の利点②

学習した知識や撮影動画をデータで蓄積し、その場で共有することができる。



デジタル学習カード

「何を」、「どのように（ポイント・良かった点・改善点）」、「方法」を具体的に学習カードに整理しながらまとめられるようにする。また、本時の最後の演技映像を蓄積しておくことで、「課題」発見や「できた」を実感できるようにする。

12 次時の予告
13 挨拶・片付け

- 次時の連絡をし、見通しをもてるようにする。
- 元気に挨拶し、片付けを速やかに行う。

9 参考資料

(1) 学習資料

台上前転

レベル1

踏切

【POINT】

- ・ロイター板を力強く踏み切る。
- ・腰を高く上げる。

<見るポイント・アドバイス>

- ・ロイター板の踏み切り
- ・音(蹴ったとき)

【つまづき】

- 腰が上がらない。
- 足が上がらない。

【解決方法】

- ★ロイター板を強くける。
- ★助走は短く、強くける。

★練習内容・場所の工夫★

- ・腰上げ練習(ロイター板)
- ・積み上げマット
- ・マットでけり足練習

レベル2

着手

【POINT】

- ・手前に着手する。
- ・しっかりと支持する
- ・腰を高く上げる

<見るポイント・アドバイス>

- ・着手とお尻の位置。

【つまづき】

- 頭が入らない。
- 着手の位置

【解決方法】

- ★あごを引き、頭を入れる。
- ★手前に着手する。

★練習内容・場所の工夫★

- ・飛び箱の上にマット
- ・2台連結
- ・低い段設定



レベル3

着地

【POINT】

- ・体が丸まっている。
- ・目線はおへそ。

<見るポイント・アドバイス>

- ・目線と頭の位置。
- ・勢いがあるかどうか。

【つまづき】

- 前転ができない
- 体が伸びる

【解決方法】

- ★あごを引き、おへそを見る。
- ★勢いを強くする。

★練習内容・場所の工夫★

- ・ステージを利用
- ・台を使用(恐怖心なくす)
- ・横にソフトマット使用



レベル3

着地

【POINT】

- ・ひざを曲げて安全に着地する。
- ・着地するまでひざを曲げる。

<見るポイント・アドバイス>

- ・ひざの使い方。
- ・決めポーズ。

【つまづき】

- ひざが伸びる。
- 安定しない。

【解決方法】

- ★着地まで腰を伸ばさない。
- ★恐怖心なくす。(高さ)

★練習内容・場所の工夫★

- ・ステージを利用
- ・台を使用(恐怖心なくす)
- ・横にソフトマット使用

★模範映像★

・Classroom[保健体育2年]

・器械運動(模範映像集)

★学習資料★

・器械運動(学習資料集)

・飛び箱運動場の工夫資料

模範動画保存場所、学習資料を確認する。

技能習得のポイントや仲間が見るポイント、アドバイスポイントを確認する。

つまづきの例や改善するポイントを確認する。

練習内容や練習場所、場の工夫の例示を確認する。

滑らかに跳ぶための手立てをレベルに分けて、自己の学習進度や到達度を確認するための資料について、現段階で「何を」「どのように」、「どんな」練習が適しているのかを確認する。また、「見るポイント」や「アドバイス」の例示をすることで、話合いの視点を明確化し、仲間の課題や出来映えを伝えることができるようにする。いつでも模範動画や学習資料が確認できるようにすることで、知識の確認や視覚的に変容を確認できるようにする。

(2) デジタル学習カード

本時のねらい：条件を変えた技や発展技で飛び越そう

取り組んだ技の名称：

<滑らに行く?なぜ?>

<ポイント・良かった点・改善点>

<方法>

★自己評価★

課題への取り組み	A・B・C	協力して活動できた	A・B・C
目標像を意識できた	A・B・C	総合評価	A・B・C

「何を」、「どのように(ポイント・良かった点・改善点)」、「方法」を具体的に学習カードに記入する。また、撮影した動画を保存して提出する。学習資料を蓄積・活用していく。

自己評価で本時の取組を振り返る。

(3) 練習場所



「できた」感覚を身に付けることや恐怖心をなくすための場の設定をする。練習場所の例は、デジタル学習資料に保管してある。技能の程度に応じた練習場所を選べるように工夫する。